

鹽
尻
四
扁
七



1冊5
508
50



高月一四七

○或人曰淨古宗流の西山支流は、嫡流なり
吊曰源空年善と考ふるは建久元年四月
澄空從源空剃髮七年六月法如、辨阿
初て謁源空とあり、以此るれば西山乃
澄空先く源空の弟子と可也、且建久九年
源空選款集と述せし時真觀、筆授澄空と
勅文とあり、澄空の蓋し上足の弟子と可也善峯
因戒一流なり

○羽庭の紫實十七家云、伶人十七家天王寺
紫人十七家也、神の官府の侍云、日ノ神領
天王寺の寺主也といふ、其縁は、

近年和州神南村和分よりしむらひ 今とんらんといふやうに神を
二の名の地より新築定めて候より賜ひ各
家分祀せり神の業位とて在る方とて右方
よりんといふを氣にとり
○今上新殿遷幸し也

奉行尚長朝臣 并七路寺
石中将

兼日行事、上御辨等参新造、内裡奉
仕、御装束、尚日、早と神祇官奉仕大殿
矣、先、詔卿参集陣、次、奉行職、奉、作、
召仰之事、於大臣退去、次、上御令、官人、敷
轍、次、上御以、官人、召、大外記、仰、召、仰、之
事、外記退、次、上御、以、官人、召、辨、仰、

御輿、御装束、事、辨退去、次、諸卿起座、入
刻限、出御南殿代、立、御、御帳前、内侍捧、
劔、爾、候、御帳、左右、近衛引、陳、次、公卿
列立、陰陽、頭奉仕、反、向、次、圍司、奏、次、
少納言、鈴養、次、中務省、取、版、任、次、寄、
御輿、於、篋、子、上、達、部、將、離、列、階、下、掃、部
察敷、莚、道、次、上、達、部、將、上、臈、昇、階、同、
輦、戸、進、持、御、劔、内、侍、前、上、跪、取、御、劔、
入、御、輿、退、候、
宸儀、兼、御、大將、称、敬、次、吏、進、持、金
内侍、前、取、金、入、御、輿、退、候、次、御、同、輿、

御生 次又初將參進同鞞戸降レ借ラカレ列ニ
次御輿出御於御門下大將仰ス御綱諸臣
供奉前後行列御輿到承明門神祇官
献大麻 雅樂察奏音樂 御輿入御兼
明門暫留陰陽察散供呪術前行次
公卿立南庭東向次奉安御輿於南階
簀子左右大將及次將候階下次上達
部將參進同鞞戸取劔金授内侍
宸儀下御大將稱蹕次御同輿下給次
初將更參進同鞞戸降階退出次
立御母屋御帳前内侍取劔金候左右

次撤御輿大將上達部等退加公卿列次
中務置版位次少納言鈴養
宸儀入御清涼殿是道次諸臣退出次
着御御直衣更出御盡御座供五菓
陪膳典侍役送女藏人次入御次供
夕御膳倍膳藏人頭役送五位藏人
次於直盧藏人覽吉書先官方次下吉書
於使座上卿次上卿奉行如例次諸臣
退出

寶永六年十一月十六日 天快霽
同日、夜内侍所遷座

正宮よハ收すりし頭職の分凡官位の上人ハ

多也 物政同の参儀列る 一條禅園の位号體ハ

参議民部卿正四位下兼行春宮大夫

とあそハしまればたりけ兼の字の民部卿

顯定少将兼信大夫を兼つる也けり参議

の下兼の字の事とて是等の誤り

三三

○宝永六年十月廿四日 追衛、大同 従一位前 基大 臣 基 煥 公

大政大臣に任じたりしはこれと云ふ事ト

○正世書札の流よハ上と申すけり其の意詳カ

りしなり或人曰これ其本流り也の目録の流よ

ハ上と書すりて上と云ふ事ト云ふ事ハ

中世下世の流りハ下と申す此の官長ナリ

今す所文書ハ此は下と申す事ハ流り也

先と云ふ事トて上と申す事ト云ふ事ハ

の事ト云ふ事トて上と申す事ト云ふ事ハ

又封の字ハ下の子なりと云ふ事ハ

但し夕と書しとて封の字ハ書しとて久

保泉の本札の記ハありと云ふ事ハ

○今或事某氏と云ふ氏の字ハ印しとて

氏ハ姓と云ふ事ハ

護院の北右道興つゝえせまらざらん
北右に書よ興去と加へて和方一と策也
しつゝ

小倉山所ぬりしめし古一乃

法よまこむるしよのまぢらぬ

延徳元年義高臨所して不豫三月十
よみたりし

初日のおもひの國まで初山と

只ひしよもつゝの身を

月十七

なかりし人の心も思ふ

吾等の命もその命なりし
りりまあまの袖高の浦は
やとすも心もぬの
けりまあまの袖高の浦は


右に江北合戦とあり

○ 弘治の先祖執政の家の新司職事
浦に人の子孫をよ 朝廷又はつて列御
とまねの心を法をまゝと移す法和法
とらして法をまゝと移す法和法
梅子より河内吉野法と所麻殿の山
と三つより河内麻生法と所麻殿の山

なり軍儀を又此事修むるに
正軍國の士一徳の内より丁儀あり
五指と前鋒と稱し五指と改稱し
甲乙丙丁の号士を配す
前鋒の甲乙丙丁の四科と定めて
降の士又戊己庚辛の四科と定めて
勲功の賞行ひし時々の序列の叙れ
やすき者又せしむるは波を土と甲乙の
某と以て故^{八科の三と}是より凡そ平
の事と甲し人と稱し東なりしを
此事あはれむ職の人より侍り侍る世

人の記すもの秘するものあり
多し甲乙人の多しをさしと名を
修むるに似し印授のたしむるを
と名をさしと名を修むる

○亀岩亀泉と云二書京師相國寺に
年々室所將軍家の毎る所也日件
利永母皇の少佐文以難決と高野の
活はりるは況況決と見く可なり
杜撰の類なり

○車の大八葉 小八葉  以て紋飾

一、
 興去七、車の繪圖一、
 夫と考、
 八葉と描九、
 又、
 繪一、
 又、
 早、
 〇、
 案、

賢聖圖 北方

東

仲山甫 太公望 傳說 伊尹 蕭何 子產

柱

鄧禹 管仲 第五倫 張良 遂伯玉

諸葛亮

柱

魏徵 杜如晦 房玄齡 馬周 李勣

虞世南

柱

杜預 張華 羊祐 楊雄 陳寔 班固

柱

桓羊 鄭玄 蘇武 倪寬 董仲舒

久孫 賈誼 叔孫通

西右 銘書 撰政殿 沙筆 近衛 倫

中央 蓬萊 日下 獅子 松

清涼殿

公卿 間 烈金 虎 海北 友竹

法太夫 間 惣金 松 狩野 元仙

門次 間 惣金 榻 小鳥 狩野 元仙

侍帳 間 惣金 孔花 狩野 永叔

侍上 間 惣金 出水 東叔 中 延 繪 同 狩野 永叔

侍後 間 惣金 琴 碁 書 盈 永叔

鬼 間 二 永真 侍 水 間 三 探 松

羽 酌 間 六 元仙 碁 盤 所 九 柳 雪

右 惣金 花 多

議定所 十二 惣金 九老 柳 香

東 廂 南 端 巽 角 間 羊 杓 戶 二 枚 折

南 義 之 北 許 由 永真

同 折 廻 方 間 半 杓 戶 二 枚 折

東 梁 父 到 割 以 永真

日 良 角 間 半 杓 戶 二 枚 折

南 露 小 杜 丹 永叔

日、折廻り、西方、間半杉戸二枚折

東、牡丹、西、白鴨、柳、各

上、辰、良、角、座、間半杉戸二枚折

東、金、鶴、西、王、所、若、柳、各

法、儀、殿、外、柵、一、出、台、席、下、兩、身、間、杉、戸

二枚折、菊、小、四、睡、探、信

小、佛、所

佛、上、辰、八、惣、香、竟、任、賢、圖、活

中、辰、十、八、惣、金、大、禹、戒、酒、防、殿、永、叔

子、辰、十、八、惣、金、漢、文、帝、止、輦、受、言、洞、春

佛、上、辰、惣、金、高、一、言、宗、夢、賢、良、彌、探、信

南、二、間、三、三、惣、金、唐、大、宗、弘、文、開、館、柳、各

南、之、方、取、丹、廊、下、間、三、三、惣、金、唐、大、宗、弘、文、開、館、柳、各

南、廂、西、方、一、百、杉、戸、二、枚、折

東、松、惣、金、西、桃、源、各、洞、春

日、東、方、一、百、半、杉、戸、二、枚、折

東、布、川、滝、西、竹、虎

小、廂、中、央、一、間、半、杉、戸、二、枚、折

東、海、棠、寅、鳥、西、葵、春、特、許、年

日、廂、西、折、廻り、杉、戸、二、枚、折、探、信

南、竹、林、七、賢、小、高、山、四、皓

日、廂、西、方、行、高、杉、戸、二、枚、折

中間中辰 三田川 如川 市柳之八枚 永真
日之辰 若尾砂子 洞表

右者二十四の御多あり

北
東之辰 砂子泥引 押倉

市柳之辰 十六枚 上八枚 琴基書 下八枚 園流 押倉

日二之辰 砂子泥川 永真

日三之辰 砂子泥川 洞表

日四之辰 重若砂子 洞表

上辰 市柳之辰 一角一間 砂子 洞表

東之辰 一石 砂子 洞表

一石半 砂子 洞表

西廂中央一石半 砂子 洞表

同市柳高り一石半 砂子 洞表

小廂中央一石半 砂子 洞表

市少辰 辰

一之辰 砂子泥川 洞表

二之辰 砂子泥川 洞表

市柳之辰 一石半 砂子 洞表

日南行 市柳之辰 一石半 砂子 洞表

市之辰 一石半 砂子 洞表

十二辰

右古佐辰

東廂の北南、杉戸 東山、中

南、新刻の杉戸、杉戸 東山、中

西、廊下北、杉戸、杉戸 南、難、親人

御、献、間、松竹 元仙、柳伯

北、廊下、東、一、万、八、身、修、院、二、間、八、身、三、身

右、紋

御、拜、道、廊、下、北、廊、下、間、杉、戸 東、戴、安、道

御、湯、敷、御、上、段、十、身、十、身、杉、戸 御、森、の、杉、御、森

撰、水、体、多、数、南、一、万、八、身、二、万、八、身

御、拜、道、廊、下、体、訓、等、角、一、百、杉、戸 東、山、杉、戸、御、森、杉、戸

御、拜、道、間、御、車、等、

上、段、十、八、身、雲、着、砂、子、

中、段、十、身、雲、着、砂、子、

下、段、十、身、雲、着、砂、子、

上、段、東、廊、下、行、南、杉、戸 南、毎、階、左、右、御、森

小、廂、南、方、杉、戸 御、森、叔、舟

二、筋、廊、下、木、口、杉 御、森、叔、舟

御、所、南、口、杉、戸 御、森、叔、舟

御、縁、下、木、口、杉 御、森、叔、舟

御、下、木、口、杉、戸 御、森、叔、舟

古、所、高、偏

口、人

南、難、親人

元仙

二、間、八、身、三、身

東、戴、安、道

御、森、の、杉、御、森

御、森

雲、着、砂、子

雲、着、砂、子

東、山、杉、戸、御、森、杉、戸

撰、伝

口、人

口、人

口、人

御、森

御、森

御、森

御、森

御、森

御、森

御、森

清養考前、佛車考 官如遊

日向東向 石長...

日向西向 梅、小鳥

佛子考 蓮海棠

西對、石、東、杉、
漢代人 鹿、小鳥

東、土、石 石、小鳥

化糞、石 糞、田中八、 二、土、石 伊、

化糞、石 糞、飯田、 三、上、石 伊、

化糞、石 糞、口人、 四、上、石 伊、

化糞、石 糞、各、 五、上、石 伊、

化糞、石 糞、精、 六、石 伊、

信治洞亭
水急打母
條神地多信
精死林叔
白水仙人
古井洋物

長格、石 修、水叔

一、間 五、 十、石 二、 間 五、 十、石

二、石 五、

代、多、殿、方、
近江八、 諸、

一、間 近江八、 永叔 二、石 五、 精、神、仙

二、石 五、 山、石、石 五、 東、方、石、間 五、 精、神、仙

西、端、石 五、 五、石、石 五、 小、治、源、

一、上、石 五、 精、神、仙 化糞、石 五、 精、神、仙

二、上、石 五、 精、神、仙 化糞、石 五、 精、神、仙

三、上、石 五、 精、神、仙 化糞、石 五、 精、神、仙

三、上、石 五、 精、神、仙 化糞、石 五、 精、神、仙

四上段 上日

赤信柴

化粧石 音押

四信函伏

五上段 上日

杉木函知

化粧石 音押

赤信柴

東端杉戸 平利釘

杉木函知

信原殿方ノ御車寄小ノ折上ノ杉戸

小糸橋 南ハ布袋カケル

口糸公口ノ間一杉糸の杉戸 東ハ東方相

紫雲殿方内傳所ノ白

カ紗糸ヨリ南糸左方ノ方 紫雲と兼化

柳石

口糸次ノ方 紫雲と兼化

水紋

口糸ノ方 紫雲

因沙和糸口合御下ノ石同ノ中間 紫雲四季

信原殿方 杉木中野所

糸ノ間 柳石

柳石

糸ノ方

紫雲

石碩

御糸ノ方 紫雲カケル

柳石

紫雲殿方内ノ、中野所

小糸ノ方 柳石

柳石

南ノ間

紫雲砂子

杉木探取

御糸ノ間 柳石

柳石

因沙幸道御下ノ杉木杉戸 南ハ張弁

右宝永六年戌拾十一月六日

遷幸

○ 河口國屋の寺と尾寺の

夏神の御母

千坂

と及の寺と小の寺と製一 柳石一 若

精石一 若

今も類編と云ふべくすも又と云ふは
 三原

綾織



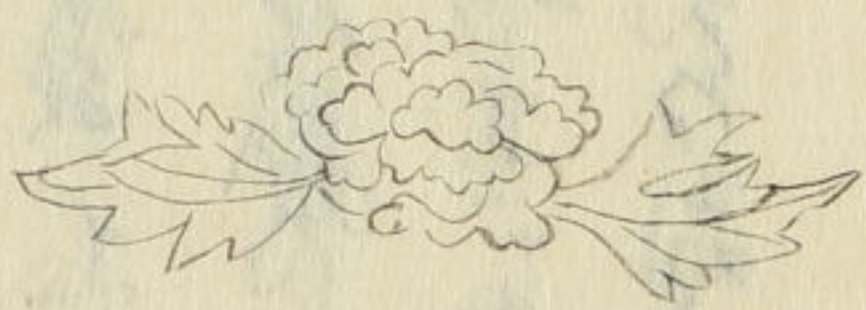
五輪式寸

雲鳥若松織

地紅梅

紋はくまの
 白一葉六葉

宝永六年
 山崎氏の織

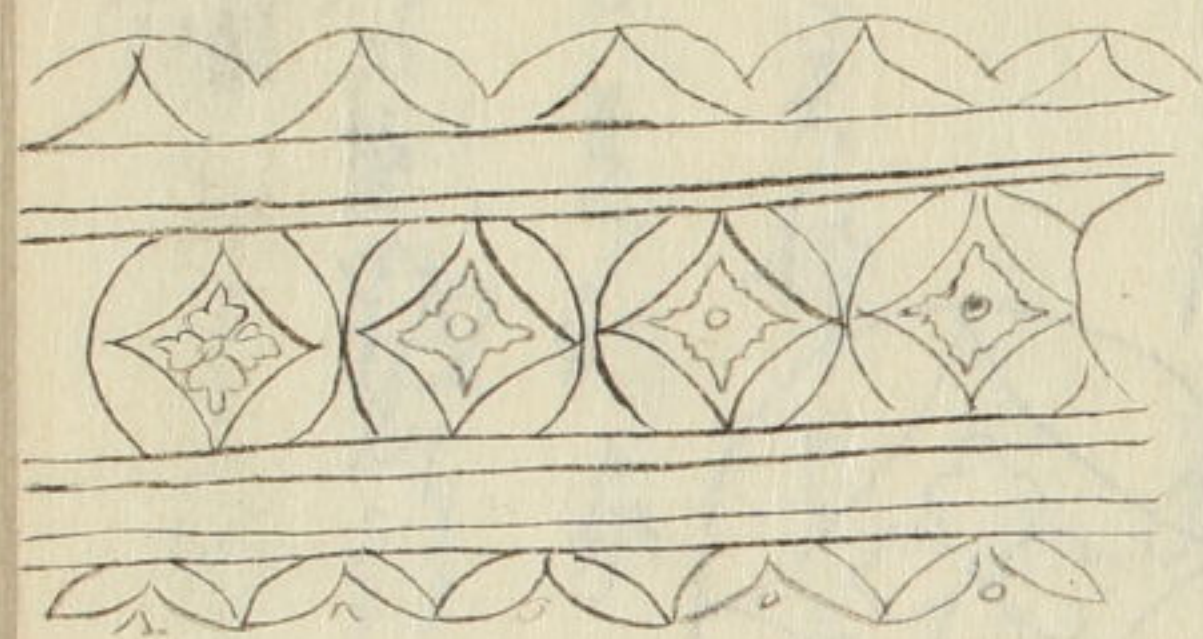


地紅梅

花よりいと葉より
 赤深淺

牡丹織

この牡丹織二三ある
 皆紋柄又赤の葉
 あり



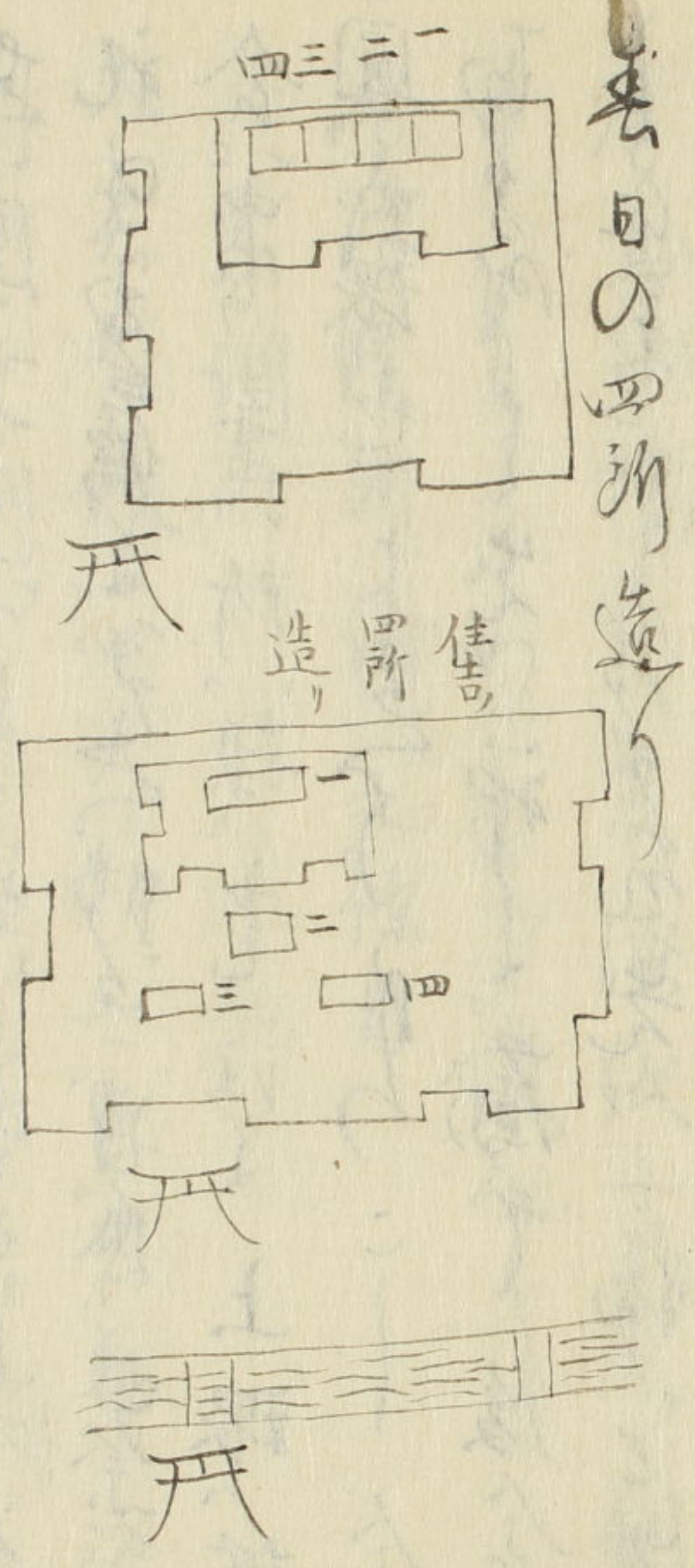
地紅梅の大小紋の
 綾のいと一織寸
 斗四文
 五葉式
 節八紋又通入て其
 と織る

彌々養一吏令一防之信一
また我公事、高家まら、
況や將軍も、大田家又、法を、
かひ一命合め、命も、
多れは、多道止、
後法名、
舟と、
也、
船始、
亭、
令、

入付の、
難異、
法垂、
時、
多、
此、
法、
流、
二、
實、

一五年より一府一縣十七般の印を
 海つる元禄九年の去る高人
 令一丸の君自の心は君自の令
 物と成つて法と云ふと云ふ
 法物もかつと云ふ干渉下我國
 代物よりより異國人これと
 高人と扱ふ初と云ふ令法と
 我民利又或人刑と犯す云
 事と云ふ一法もこれ我書の
 ありて一法もこれありた
 一我書より法もこれあり長
 元和より

貞享元年より一一定物なり
 ありて一法もこれありた
 一我書より法もこれあり長
 元和より



一
 一

或人曰俗礼は瓜と黄人の前よてすゝむ
 所との皮と去りて先上のくると横
 下へ帰切やそこれとすて飾るい
 くる家也と曰くささるるも予曰く
 是礼の由原よりんは白瓜に祭りに止
 環の中へ葉の所を標を註し上環は
 横切りに圓如環也と云りりりこ
 一合をさすも
 一輪を屬て後
 乃ちそのさすは
 我未嘗衣冠の時
 小羽の同武帝始て

漆紗と用て 製衣せられし唐より用
 我書所謂 漆塗ノ羅冠是也烏帽
 唐烏紗帽の 羨漆紙とて 制す
 今時候列偷之條目

家訓

一 大臣之儀 一心大切ニ存 忠勤 不可
 以下 以
 一 列國之例 自處ニ 孚若 懷ニ 則 非
 我子孫 面々 変而 不可 從
 一 武備 不可 怠 可以 選士 為 本 不可 上
 下 之分 乱

- 一可敬兄愛弟
- 一婦人女子之言一切不可聞
- 一可孟至畏法
- 一家中可廝風儀
- 一不可行賄求媚
- 一而々不可依怙見負
- 一選士不可取使辟
- 一賣罰家老之外不可參知之若出位者不可嚴格之
- 一不可使近侍告人之善惡
- 一政事不可以利害杜道理僉議不可挾

- 私意拒人言不藏所思可以爭之雖甚相爭不介于我
- 一社倉為民置之為永利者也歲饑則可發出濟之不可他用之
- 一犯法者不可宥
- 一若矢其志好遊樂致驕奢使士民失其所則何面目載封印領土地哉必上表可誓居

右十五件之旨堅相守之以往可以申傳同職者也

寬文八年戊申四月十日 會津中將

○四所神鏡

伊勢太神宮 八咫鏡

紀伊國名草宮 目前鏡

大和國穴師宮 御食津鏡

朝廷鏡 内侍所

白銅鏡と書キ一萬葉ノ八咫大追年之

鏡と書テ万曾養乃加々養と訓セリ

其實も真流の鏡と云ス事ナリ

○四所神劔

尾張國勢田宮 草薙劔

備前國石上宮 蛇鹿正劔

大和國布留宮 評靈劔

朝廷 新宝劔

八坂瓊曲玉ハ只一所マテ 朝廷の神金可

レこれ秘説ある事也 筑前國宗 傍

の宮の御伴も八坂瓊と云ひたりし

ハ云々 神金と云ハる又 口授の傳

あり

○此氏祿亦二物多十一局中長志斐連

雄畧伊代 東夷と云らる切續と劔

後として又加名字ヲ以テ暴代連

称号として名字といふ事ナリと據とす

知同

勅會元光東漸大師五百年御忌法事次第

前日檢校堂内莊嚴衆僧座席并樂器等
當日寅刻於樂屋登亂聲三節養神分
刻限先鳴鐘集僧一番作相外座僧衆
集會堂内左右席著座二番作相公卿
殿上人並地下役人參堂職衆集會三門
内之幄屋前

導師兼與供奉行列
次中僧前治部省著出居座奉行辨著出
居座次公卿著座次導師入於幄内

次於樂屋登亂聲次中僧前左右相
分樂於中僧中僧進步行列中僧前
列頭左右各讚中左右各梵音左右各散葉中
左右各酒水一人唄師左右各長老中左右各次中僧
前到階下左右止立中僧入堂各守標任立
而後座次迎導師舞人樂人出樂屋外
左右列立鳥蝶同列八人次調子平調
次樂行事左右牽舞人樂人參向幄之前
左八樂又行事舞人宴妻為先
右八樂行事舞人一鼓為先
鳥向一曲養畢賜祿左右
次導師出幄
執經二人執蓋一人持幡童左右從僧左右各二人

十弟子從後上童子坊官御後官人檢北
供奉衆僧前尚在階下右止次道守師
上堂執香爐着禮席樂止中僧前退出
執經執蓋退入樂行事牽舞人樂人入於
樂屋從僧先進前備道具禮席展坐具
高座敷草座前机安居管脇机安香好
管共如意設畢着外座次惣禮伽陀登聲
吹音取作樂廻盃樂導師三禮登高座
衆僧同唱十弟子着座樂止
次堂童子四人着座圖書寮為先以圖書
官人鳴金鼓二下作樂十天樂

傳供 正面階級左右列童子八人階上
左右列弟子十人左右童子各執供具授堂内
授備堂内之机上
次殿上人二人布取捧佛布施備高座
之脇机上次振揮三即次供舞左加陵
舞畢入於樂屋次鳴金鼓一下作樂
胡飲酒
唄師右二人座起着左右之座畢
登卷
賦業營堂童子四人左右相分圖書寮

為先就華筥机下圖書執華筥授堂童子
堂童授殿上人殿上人次弟賦導師并
僧正兩人前次圖書又執華筥授堂童
堂童分賦左右但除起立引頭賦畢復坐
次中僧内外座起立作樂賀殿急散華
師發聲眾僧同唱散華畢樂止
中僧着座唄師復座次鳴金鼓一下
作樂板頭
讀中起立唱讚讚頭二人執鉢職中起立唱和
梵畢余者執華筥樂止次鳴金鼓一下
供舞左ハ方々樂 右ハ妙善樂

撤ス華筥導師并僧正兩人之華筥極
撤之眾僧之華筥堂童復ス撤之
圖書案就華筥机下各授圖書收之
次導師唱導
神分表白諷誦發願四弘ガク祈願
佛名讚嘆隨意廻向
次後伽陀發聲鳴ス金鼓二下
作樂長慶子
導師下高座執香炉着ニ礼席礼拜而
退着シテ樂止
次被物

導師

唐織一重大納言
縫簿一重宰相

厚板一重 中納言

大僧正

白綾一重大納言

同一重 中納言

僧正

白綾一重中納言

同一重 宰相

長老十三人各平結一重

殿上人五人

次導師並僧正兩人之被物

御藏出納

極臈公卿

長老十三人被物御藏出納殿上人

次第傳執 次鳴金鼓入調舞左右

奏舞

左耳列 太平樂 陵王

右登天樂 古鳥嶺 納嶺利

撤被物 導師之被物坊官二人撤之

僧正兩人之被物侍者二人撤之

長老十二人各自掛之

次卑僧退出先下臈 次上臈左右一行

次第退去次從僧十弟子降階下 執蓋

進來 執繩如入堂之儀

衆僧先行

次導師退出如入儀 還列 還城樂

到幄前乘輿

寶永八年正月廿一日

辰半刻一番作相已上刻二番作相

未下刻法事畢ル以テ不レ日暮ニ主殿寮無下
立ル庭燎之儀上

著座公卿

西園寺大納言致李 日野大納言 輝光

六條宰相有藤

奉行

耳露寺頭辨 尚長 鳥丸右少辨 光榮

樂行事

持明院中將基雄 綾小路中將 俊宗

布施取殿上人

唐橋侍徒 豊巴右兵衛佐

梅小路左兵衛佐 巴崎左衛門佐 高丘侍從

執藤井民部權大輔 執澤修理權大夫

執蘇光寺極老

地下役人 衆僧前 小林主税頭

藤木下野守

堂童子

津幡刑部權少輔 高橋大隅守

難波左京亮 藤木右近衛將監

出納 右近衛將監

御藏 真繼刑部少將

圖書寮 小佐治隱岐守

主殿寮 小野治部丞 小野兵部丞

樂人五十八人

知恩院宮 導師二品法親王尊統大和尚

衆僧

大谷方丈

大僧正應譽

院家覺了院

僧正空譽

會奉行一人 長老十三人 唄師共

散華衆十人 伽陀一人 讚衆十人

十弟子十人 梵音衆十三人

一心院衆十人

聚會同衣上人六百八十口出世僧侶凡二千
余人自廿二日至廿四日 初夜禮讚說法

右行列

一番

自御本坊至三門 内幄行列

一心院

門中四ヶ寺 門中五ヶ寺

先拂 先拂

長老

侍者 侍者

白張 同 同

同數輩二行

青侍十人 同

小結 三人

大童子

中童子

同

持幡童

小童

坐具 卓座

香筥 同

十弟子五人

サライホウシ 侍法師

法親王御輿

侍法師

打懸数輩

布衣三人 布衣三人

御傘

革鞋

鼻高ビナカ

青侍人 青侍 青侍

上童

童 童

布衣 同

傘持 沓持

青侍 青侍 青侍

坊宮

青侍 青侍

傘持 當持

青侍 同

白張十人 同

御後宮人

青侍 同

傘 當

二番

衆僧入堂帷前行列

玄蕃寮 治部省

贊衆五人 日

梵音五人 日

散華衆五人 日

酒水

上人五人 日

唄師五人 日

三番

御導師迎樂人參向行列

樂行事 同

舞人 同

鳥三人 蝶三人

伶人 伶人

御導師入堂帷前行列

持幡童子

坐具

從僧

香炉

從僧

御導師 尊統法親王

執綱

布衣二人

執蓋

布衣 日日日

宮僧五人

同

草座

同

居

同

御導師

執綱

布衣二人

宮僧五人

上童

童子

中童子

大童子

坊官

坊官

御後官人

檢非違使

右以梁道大僧都之本ヲ写之畢

梁道八知恩院官僧也

大樹殿使侍從兼紀伊守源ノ信慈朝臣ヲ

童子

日

日

献^三香儀^一 白銀一千枚供米三百石賜下乘ノ碑^一凡法會中ノ下行皆關東之命也

○ 孫家清花大臣名をね林家等代この
不家のみ凡と并殿の人々ハ帝^一玉
の^一世の中^一何^一の^一所^一に^一居^一る^一に^一居^一る^一に^一居^一る^一
此^一す^一一^一度^一比^一り^一と^一り^一て^一又^一勅^一して^一
并^一殿^一せ^一し^一り^一の^一よ

○ 孫^一家^一ノ^一諱^一と^一記^一す^一に^一君^一び^一あり^一た^一と^一し^一
三^一官^一祥^一表^一の^一後^一改^一り^一考^一と^一名^一と^一記^一
十^一一^一と^一傍^一殿^一と^一云^一て^一
良^一嗣^一改^一忠^一嗣^一 孫家傳
氏^一書^一す^一又^一比^一下^一り^一并^一殿^一と^一融^一り^一云^一

象^一と^一書^一す^一室^一所^一あり^一て^一云^一て^一
高^一氏^一 改^一高^一氏^一 同上

又^一右^一臣^一と^一云^一て^一至^一る^一象^一の^一人^一王^一官^一の^一る^一
名^一と^一改^一り^一と^一比^一の^一名^一と^一書^一す^一

義^一教^一 元^一義^一宣^一
義^一教^一神^一ハ^一信^一三^一十^一六^一の^一付^一弟^一如^一公^一一^一叙^一爵^一
の^一付^一陳^一の^一座^一の^一宣^一下^一あり^一付^一時^一義^一宣^一と^一
す^一永^一享^一元^一年^一三^一月^一将^一軍^一宣^一下^一の^一付^一義^一教^一
と^一改^一り^一也^一是^一後^一の^一名^一と^一書^一す^一

義^一改^一元^一義^一成^一 同上

義成の名も文安三年由名字の何
宸名と傳ふ事一傳ありといふ亭
二年位一任の後義政と改られり
又後の名と書せり
此等の例とよく見えて事つぎの中地
武士のどしどしハ 語てこれより
あつたこと中にも名と具し又と
あて久しき官位も任叙あること
名と事す改某と伝す一今系傳の
法甚だおて心も事す故に職の人
んて第と事す事一毎にり

